



<http://www.scout-ib.net/>

◆ 関連盟長ありがとうございました

平成 30 年度ボーイスカウト茨城連盟年次総会において、平成 2(1990) 年から本年まで 28 年の長きに渡って連盟長として本県連盟の発展に尽力された関正夫第二代連盟長がご勇退されることになりました。今後は、「名誉顧問」として大所高所からのご指導をいただくこととなります。ここに長年にわたるご尽力に心からお礼を申し上げます。



思い返しますと初代連盟長の徳川宗敬先生が平成元(1989)年5月に91歳でお亡くなりになり、38年間の長きに渡り県連盟をお導きいただきました。徳川連盟長には県連盟再建当時からのご奉仕・ご指導をいただき、あまりにも偉大な存在であったのでその悲しみとショックから抜け出すには時間が必要とされ1年間は喪に服して連盟長空席となりました。

その後をうけて第二代連盟長として経済界から関彰商事株式会社の 関正夫 社長(現会長)をお願いすることとなりました。スカウト運動の発展のためには、県連盟の大きな役割はスカウトを育てる「指導者の養成」と円滑な活動が可能となる「財政基盤の確立」が重要といえます。その点では、関連盟長には「財政基盤の確立」に多大のご貢献をいただいたことと、「日日の善行運動」を推進されたこと

が特筆されます。

県連盟にとりましては、再建当時の佐野珣治初代理事長時代から恒久的な財政確立を図るために苦勞され、財団設立の提案協議も機が熟さず中断のまま月日が流れておりました。昭和 55(1980) 年に入り 5 月理事会(岩瀬 勇第二代理事長)において財団設立について再度提案がなされることとなり、財団設立準備委員会を発足させることとなりました。このことを受けて加盟各団においても加盟員を中心に基金を募ると共に、民間企業等も協賛を仰いで昭和 56(1981) 年 12 月 16 日に『財団法人ボーイスカウト茨城県連盟維持財団』として認可されることとなりました。しかし経済情勢の変化により、預金利子の急落により財団本来の目的である基本金収入の大幅なる減少により県連盟の補助事業が困難になりました。そのような折、関連盟長就任の翌年度から 10 年間にわたり基本金として総額 2 千万円をご寄付いただきより強固な基本財産として今日に至っています。心から感謝を申し上げます。



また、関連盟長はスカウトたちに対して「日日の善行キーホルダー」の活用・実践を推進されたことが特筆されます。「心のキーホルダー」というメッセージの中で



次のように述べられています。「このホルダーをいただいた皆さん自ら「実践」というかぎを心の中につけることであり、そしてそのかぎは、スカウティングという運動の車を発進させるための「心のかぎ」であります。・・・常に携帯するよう指導されても、忘れることもあるでしょう。しかし、心のかぎは忘れることもなく、一生持ち続けることのできるかぎであると思います。」と述べられ、行うことによりスカウト精神が身につくよう呼びかけられました。

関連盟長のご芳志とご指導に心から感謝すると共に、県連盟の発展とスカウト教育活動の充実を期して更に精進することをお約束したいと思います。本当に長い間、有り難うございました。

(連盟長 山田隆士)



スカウトは“日日の善行”の先導者たれ!

～ 連盟長に就任して～

山田 隆 士

このたび平成 30 年度県連盟年次総会において、初代:徳川宗敬連盟長、第二代:關正夫連盟長の後任として推戴を受けて第三代連盟長に就任することとなりました。

ここに徳川・關両連盟長のお二人の後を受け継いで、第三代連盟長に就任した自分には何が出来るのか、何をすべきかを自問自答してみました。

振り返ってみますと、私とボーイスカウトとの関係は小学校 5 年生の時に土浦市にカブスカウト隊が発足した時に入隊し、現在に至るまでスカウトとして、更には指導者としてこの運動に携わってきて 60 年余になりました。このことを踏まえると、自分にとって出来ることは、多くの経験等をさせていただいたことに対する恩返しをすることと考えています。またスカウト経験者として、スカウト教育の先頭に立ってスカウト運動の理解と啓発に努めることにより、運動の発展につなげることが自分の役割と思っています。

ボーイスカウト運動は、言うまでもなくイギリスのベーデン・パウエル卿の創始によるもので、国際的で世界的な青少年教育運動です。スカウトは世界共通の「三つの誓い」を誓い合った仲間として、人種、宗教、言語などを乗り越えたスカウトの間に兄弟愛が普遍であることを教えています。従って、とりわけスカウトのスカウトたる真価は、この「三つの誓い」と更に「八つの掟」の実践にあることは言うまでもありません。

日本連盟の初代総長:後藤新平先生は次のように教えられました。

「人のお世話にならぬよう 人のお世話をするよう そして報いを求めぬよう」

この実践に当たっては、私のスカウト時代にはネッカチーフの先端を結んで、良いことをしたら結び目をほどいてよいと教えられたものでした。集会時に隊長の前に立つと「お前は、まだ良いことをしていないね」と言われたことを思い出します。また、近年では、ボーイスカウト振興茨城議員連盟からのご支援により作成された「日日の善行キーホルダー」の活用・実践があります。キーホルダーなので、いつも身につけておいて良いことをしたら右のポケットから左のポケットへ、また良いことをしたら左から右へと移動させて自覚することをうながすものです。

そして何よりもスカウトのモットーである「そなえよつねに」を単なる目標に終わらせるのではなく実践することが大切です。日頃からスカウト活動に挑戦し、自然を教場とした野外活動等をとおして人格・技能・健康・奉仕の力量を高めることに努めましょう。また異年齢集団で構成されるパトロール(班・組)の仲間と共に切磋琢磨して、社会に役立つ人に成長できるよう頑張りましょう。更に、加盟員一丸となり「日日の善行」実践の先頭に立って、地域社会にその輪を広げていきたいものと考えています。

スカウトのためのスカウティングを目指して

～ 理事長就任あいさつ ～

八 木 雄 二

去る5月20日に開催されました平成30年度年次総会におきまして、皆様のご推薦をいただき引き続き理事長の職を担当することとなりました。

もとより、非力の私ですので、平成28年に理事長就任以来各種の事業に対して、自問自答しながら運営してまいりました。任期中、規約改正、分担金の改訂、日本ジャンボレット高萩2017の開催支援等の大きな課題の取組みがありましたが、幸い、県連盟役員の方々からの御協力や加盟各団の皆様のご理解を得て事業を進めることができました。今後も、皆さんからのお力添えをいただきながら、運営に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

今年度は、先の年次総会において、平成2年より28年間の長きにわたり、大所高所からご指導いただいた関連盟長が勇退され、山田新連盟長を推戴することができました。山田新連盟長におきましては、60年以上にわたりスカウト・指導者を経験され、スカウティングに精通されておりますので、より身近な立場で我々を指導いただけるものと考えます。

さて、今年度の活動スローガンは「活動的で自立したスカウトを育てよう!!」としました。スカウトを育てるということは、スカウティングの永遠のテーマではありますが、その方策は、時代の変化やおかれている環境によって、おのずと変わってくるものであります。特に、昨今の少子化や意識の多様化及び理解度の不足等々により中途退団者が増加し、加盟登録人員が減少している現況では、指導者の資質の向上によってスカウトに対して「スカウトのためのスカウティング」を提供し、スカウトが「楽しく」そして「役に立つ」と実感できる活動、更にはスカウトの保護者が上進させたいと思える活動が強く求められております。

その具体的な施策につきましては、年次総会の場で議論させていただきましたが、スカウティングの本質であります、野外を教場とした訓練及び野外活動を基本としたプログラムを提供することが重要であります。そのためには、各種委員会が一体となり、コミッショナーグループ及びトレーニングチームと協働して取り組んでまいります。是非、多くの指導者、スカウトが各々の事業に参加し、実感していただくようお願いいたします。

また、今年度は、組織の拡大・充実に積極的に取り組んでまいります。従来、ややもすると、加盟員新規募集に対しては各団の自主性に任せ、県連として十分に対応してこなかったのではないかと考えます。加盟員の減少は単に当県連盟ばかりではなく、日本連盟全体の問題となっておりますが、日本連盟では「社会貢献、広報委員会」において組織拡大のための情報を発信しております。県連盟といたしましても、日本連盟からの情報を活用すると共に、県連盟独自の情報を発信し、加盟各団が同じレベルで組織拡大のための活動が実践できるよう、進めてまいります。



原動力となるのは「スカウトの笑顔」

県連盟コミッショナー 若林 正則



皆さん、こんにちは。日本ボーイスカウト茨城県連盟コミッショナーの若林正則です。前任の中島さんに替わって平成30年4月に県連盟コミッショナーに就任しました。

ボーイスカウト運動は、健全な青少年の育成を目的とした世界的な社会教育運動です。スカウトは、成人指導者の支援のもと、野外活動を中心としたプログラムを通して、健康を築き、社会に貢献できる能力と人生に役立つ技能を体得し、実践できる青少年を育てる運動です。

茨城県連盟のコミッショナーグループは、心身ともに健やかで、社会に貢献できる青少年を育成するために、様々な支援を行っています。共に頑張っていきたいと思います。

さて、就任にあたって活動方針のお話をさせていただきます。それは、平成30年度事業方針の「コミッショナーの活動方針」の中で述べました3つについてです。

初めに、この運動が求めている指導者像の明示とその達成に向けた取り組みについてですが、活動的で自立したスカウト育成のためには、すべての指導者がこの運動を正しく理解し、スカウト達に正しいスカウティングを提供・指導できることが大切となります。そのために、コミッショナーはそれに向かうベクトルを示して、指導者が自分のスカウティングの知識や技能の向上に愉しく取り組んでいけるよう支援していきます。きらきら輝くスカウトたちから憧れられる指導者になりましょう。その第一歩は、「私の研修計画」への取り組みからです。

例えば、キャンプで、安心・安全なテント生活を送るには・・・と考えると、シートとロープを使ってこんな時はどのような結びがいいのか？ どことどこを結べばいいの？と、疑問が生まれてきますね。疑問が湧いたら、そうやってみましょう。まずは簡単なところから。そうは言ってもなかなかできないものです。ボーイスカウトの研修は「みんなでやってみよう！」という場なのです。そこで失敗をくり返し、技術をひとつひとつ楽しく身に付け積み重ねて行きましょう。ボーイスカウトでは「観察と推理」とか「創意工夫」とかを大切にしていますが、それは、失敗から学ぶことが大切なのです。手順や構造、完成形の想像力などは、失敗の繰り返しによってひらめきとして表れます。そんなスカウトたちから憧れられるきらきら輝く指導者に近づく場が、指導者の研修なのです。

次は、ラウンドテーブルとコミッショナー、トレーニングチーム員の育成についてです、今年度もラウンドテーブルコミッショナー会議に

より、県内で同じテーマ、同じ内容の県内統一のラウンドテーブルを実施します。

ラウンドテーブルは、指導者にとって最も身近な勉強会です。そこでは新たな発見もあると思います。また、「それはちょっと苦手。」と思うところもあると思いますが、「今」自分自身でできることと、できないことをしっかりと意識していただき、その苦手な部分の何ができないのかを見つけてみましょう。そして見つけたとき、地区のコミッショナーに相談してみましょう。解決に向けてのヒントをくれるのがコミッショナーで、具体的に教えてくれるのがトレーニングチーム員です。そうは言っても、解決は自分でしなくては自分のチカラにはなりません。

最後に、スカウティングをもっと地域の方々に知ってもらい取り組みについてです。一般の方々は、「ボーイスカウトは知っているが、何を行っている団体なのかは知らない」です。そこでこの運動を知って理解してもらうために3つの取り組みを行います。

- 1つ目は、セーフ・フロム・ハームの導入して、安心・安全のスカウト育成の環境をつくりあげていること。
- 2つ目は、この運動に係わる全ての加盟員は救急法を修得していることを実現し、いつでもどこでもスカウトが役立てる環境を作り上げること。
- 3つ目は、「日日の善行」をスカウトたちが取り組める環境を作り、それを実践することによって、善行への意識を醸成し、地域に広めていくこと。

これらの培った技能や精神によって、小さな社会貢献を積み重ね、スカウト1人ひとりが良きメッセンジャーとなることで地域社会に発信していき、また、この運動が多くの青少年に成長・発達に資することができるように、そして、ボーイスカウト運動の存在をより広く理解してもらえるように指導者や保護者の皆様と手を取り合って地域社会に浸透させていきたいと思います。

以上大きく3つのことについて述べました。しかし、そこには、いろいろな困難や問題が起こってこころでしょう。それらは、コミッショナーが中心となって、ひとつひとつクリアしていきます。そのときに私たちのモチベーションであり原動力となるのは「スカウトの笑顔」なのです。

スカウトだけでなく、指導者も保護者も笑顔になれる、そんな運動にしていくべく、皆様、どうぞよろしくご協力をお願いいたします。

◆ 平成 30 年度 県連盟役員、コミッショナー、トレーニングチームの紹介

5月20日の茨城県連盟年次総会において、今年の県連役員が選任され承認されましたので紹介します。

6月16日の県連理事会において、地区の正副コミッショナー及び団担当コミッショナーが改選されましたので、ご紹介します。

名誉連盟長	大井川 和彦 (茨城県知事)
名誉顧問	關 正夫 *
連盟長	山田 隆士 *
副連盟長	竹本 俊一
理事長	八木 雄二 (学識経験理事)
副理事長	河合 敏行 (学識経験理事)
副理事長	宮田 俊晴 (学識経験理事)
副理事長	高橋 輝明 (学識経験理事)
副理事長	中島 清行 (学識経験理事) *
地区代表理事	若林 新一 (第1地区)
地区代表理事	市川 勝一 (第2地区) *
地区代表理事	小坂 浩 (第3地区)
地区代表理事	平澤 正則 (第4地区)
地区代表理事	吉田 誠 (第5地区)
地区代表理事	高橋 正一 (第6地区)
学識経験理事	吉川 勲
学識経験理事	小室 博俊
学識経験理事	吉田 俊仁 *
名誉会議議員	小野 勝久 (第1地区)
名誉会議議員	津久井 一茂 (第2地区)
名誉会議議員	中川 しん郎 (第3地区)
名誉会議議員	八城 健彰 (第4地区)
名誉会議議員	池田 正 (第5地区) *
名誉会議議員	若生 悦男 (第6地区)
監事	富田 光紀
監事	戸館 善敬
事務局長	八城 貞子

【名誉役員】

長	老	橋本 千代寿
先	達	佐野 英樹
参	与	久保田銃十郎
参	与	武田 秀夫
参	与	久保 勝男
参	与	柏原 公子
参	与	千野 欣重
参	与	白石 陽一
参	与	三浦 勉
参	与	石塚 正夫
参	与	吉永 行輝
参	与	井澤 敏雄

無印は継続の「再任」 「*」は新任
「*」は前に一度就いたことのある役職に就く「再任」

【県連盟コミッショナー】

県連盟コミッショナー	若林 正則 *
副県連盟コミッショナー	海老原 学 *
副県連盟コミッショナー	杉浦 一弘
副県連盟コミッショナー	郡司 美津江
副県連盟コミッショナー	関原 仁美

【地区コミッショナー】

第1地区コミッショナー	磯貝 守男	
同 副コミッショナー	熊谷 勲	(団担当コミ兼務)
同 副コミッショナー	平山 貴靖	(団担当コミ兼務)
第2地区コミッショナー	吉川 勲	
同 副コミッショナー	小鹿 拓良	
同 副コミッショナー	小森谷 直美 *	
同 団担当コミッショナー	竹内 由比子 *	
第3地区コミッショナー	本橋 成規	
同 副コミッショナー	大月 健人	(団担当コミ兼務)
同 副コミッショナー	小島 利夫 *	(団担当コミ兼務)
第4地区コミッショナー	工藤 国子	
同 副コミッショナー	富田 弘司	
同 団担当コミッショナー	八城 貞子	
第5地区コミッショナー	菊地 永	
同 副コミッショナー	生田目 元典	
同 副コミッショナー	村田 隆浩	(団担当コミ兼務)
同 副コミッショナー	郡司 美津江	
同 副コミッショナー	小峰 茂	
同 副コミッショナー	吉田 理佐	
第6地区コミッショナー	西嶋 由貴子	
同 副コミッショナー	杉浦 一弘	(団担当コミ兼務)
同 副コミッショナー	種田 嗣大	

【トレーニングチーム】

ディレクター	村田 隆浩
副ディレクター	生田目 元典

【県連各種委員会】

総務委員長	河合 敏行 (副理事長)
副委員長	菊地 永
プログラム委員長	宮田 俊晴 (副理事長)
副委員長	大越 義智
指導者養成委員長	高橋 輝明 (副理事長)
信仰奨励委員長	吉川 勲 (学識経験理事)
副委員長	寺内 義興



貴団および各隊においては、夏休みに向けて夏季の諸活動の準備が進められていることと思えます。

夏のプログラムは・・・

ボーイスカウト隊においては年間の最もアクティブな活動であり、スカウトが最も楽しみにしているプログラムです。

ベンチャースカウトにとっては、大きなプロジェクトにチャレンジできるチャンスです。

ローバースカウトは団で奉仕したり、指導者として、より深い体験を積むことができるチャンスです。

カブスカウト隊においては舎営によって、スカウトの成長を促す絶好の機会です。

ビーバースカウト隊においても、団行事等に参加してお兄さん・お姉さんスカウトの活躍を目にすることができるでしょう。

そうしたスカウトたちの期待にこたえるよう事前の準備や下見に、指導者の方々は邁進されていることと思えます。

「隊長、キャンプ楽しかったね」

「野外炊飯、上手にできたよ」

「ナイトゲーム、ドキドキだったね」

スカウトたちの声が私達の励みになります。楽しい、ワクワク、ドキドキのプログラムづくりをお願いいたします。

しかし、そのような楽しいプログラムを作成しても、事故が起こっては何にもなりません。

野外プログラムの実施においては危険予知を含め、十分な安全対策を講じた上での実施が不可欠です。特に水のプログラムについては、必要かつ十分な安全確保ができることが実施の大前提となります。

つきましては、夏季のスカウト活動に向けて、別紙のとおりご通知いたしますので、必ず、全団・隊指導者に周知下さるようお願い申し上げます。

また、県連で実施します「安全危機管理研修」受講や「安全危機管理HB」の熟読、団や地区で実施する救急法講習への参加などあ

らゆる機会をとらえて、繰り返し安全技能の取得と向上、安全意識の喚起、各部門の安全体制・態勢等を強化され、事故防止に対する万全の措置を講じられるようお願いいたします。

また併せて、スカウト指導者一人ひとりが「個人としても健康管理を含めて安全等について自分で責任をもつ」という意識・精神の醸成に向けた取り組みをお願いいたします。

1. 楽しい、ワクワク、ドキドキのプログラム作り

特にボーイスカウト・カブスカウト隊では、夏のキャンプや舎営による共同生活が、スカウトの成長を促してくれます。スカウトたちが楽しみにしている夏の活動ですので、楽しい、ワクワク、ドキドキのプログラムをいかに提供するかが、隊指導者の腕の見せどころではないでしょう。

そのためには、団・隊指導者の中でベテランの指導者に助言を求めたり、他の団の指導者や地区コミッショナー等にプログラムヒントを提供してもらったり、書籍やインターネットで調べたり、事前の研究が大切です。

プログラムがマンネリになっていないか、スカウトにとって新鮮味があるか、もう一度、隊指導者の皆さんで検討してみてください。

ただし、「楽しい、ワクワク、ドキドキ」が優先されるあまり、安全がおろそかにならないよう、事前の入念な下見や検討をお願いいたします。スカウトの年齢、知識、技能、体力に適合した余裕のある計画をもってプログラムの実施にあってください。

2. 入念な下見と指導者・スカウトのスキルに合わせた活動を

過去の事例を検証し、そこで学んだことを生かして下さい。スカウトの体力を考慮しているか、下見をしているか、経験の少ない指導者に引率させていないか、緊急時の連絡体制が整っているかなど、事前のポイントはいくつもあります。登山やハイキングを計画している隊は、十分な準備と対応をお願いします。

また、栃木や群馬、福島など県外へキャンプ・登山等に出かける場合には、県外旅行申請を県連盟事務局に必ずご提出ください。

3. 無事に帰宅してこそ、夏の活動は成功したと言える

「キャンプは、玄関を開けて『ただ今』を言

うまで終わらない」と良く言います。スカウトも同じで、指導者・スカウトが無事に帰宅してこそ、夏の活動は成功したと言えます。

そのためには、安全管理とともに指導者・スカウトに対する安全教育も重要です。なぜそのような対策を講じなければいけないのか、こうするとどこがいいのか、スカウトにもわかる言葉で伝え、自らの安全については自分で責任を持つスカウトの育成に努めて下さい。

安全管理の詳細については、県連ホームページ「夏季諸活動の留意事項」を熟読ください。

4. 指導者の心構えについて

(1) セーフ・フロム・ハームの順守

日本連盟では、セーフ・フロム・ハームを推進しています。セーフ・フロム・ハームとはあらゆる危害からスカウト・指導者を守る取り組みです。肉体的暴力（体罰）だけでなく、心理的暴力（威圧的に大声で罵倒する、スカウトの自尊心を傷つける発言をするなど）も虐待にあたります。指導者対スカウトの対応に注意するだけでなく、スカウト対スカウト、指導者対指導者の虐待・差別についても目配りをお願いします。

(2) 飲酒・喫煙

スカウト活動中の飲酒・喫煙はスカウトに与える影響を考える時、厳につしむべき事です。

隊指導者のスカウトとの活動中における「飲酒の禁止」については、地区コミッショナーよりラウンドテーブル、地区協議会などの様々な機会を通じてすでに要請され、概ね徹底されてきていると感じています。

今後の夏季の諸活動においては、団委員長から、指導者・団委員・活動に同行される保護者各位の禁酒・禁煙についても周知徹底していただくようお願いいたします。併せて、スカウトの前で禁煙についても、周知徹底をお願いします。「ちかい」をたてた指導者であれば遵守することは「名誉」です。

